

**高木** 本校の記念祭というのは体育祭、文化的な行事、閉幕祭と大きく3つの柱に分かれているんじゃないかと思うんですがね、特に体育祭以外は圧倒的に文化的な行事が多いんですね。文化部の話はどうでしょうかね。

**山本健** 文化部は公演と展示とがありましたけれど、展示の方は全体的に見て皆あんまり見に行かないのが多かったですね。展示するのは、OBの人に僕ら後輩はこんなのやってるんだぞというのを見てもらうという意味を込めて、土・日曜にもってきましたね。茶道部に行けば安いお金でお茶とお菓子がいただけて、女の子が相手をしてくれるというので、結構来てたという印象があります。実際に行ってみてもただ展示をしてというだけで、解説があるわけじゃなし、そういう印象がありましたね。

**安藤** 自治会展示つまりクラス展示に比べて、文化部展示は準備期間が1年間あるんですよ。ところがその割には展示をすると毎年同じことしかやってないという気がするんですよ。映研なら映画をやる、ギター研はライブをやるとかね。文化部展示のことは文化部長の方にまかせっきりだったので、あまり口もはさまなかったんですけども、折角の記念祭やのになあ、という気が3年間ずっとしてたんです。

**高木** 水野さんなんか、どうでしょう。文化部長ですから。

**水野** 僕の1代前の星野さんが合同展示というのを企画して結局企画倒れになったんです。合同展示というのは、文化部同士例えば映研と地研とかで組んで映像的な地学のものを作ったり、そういうクラブ同士の助け合いみたいなのをしたんです。準備期間は長かったんですけど結局は成功しなかったですね。

文化部展示は、僕らの代も文展（文化部展示）と自展（自治会展示）とを組み合わせました。文化部だけで展示の内容なんかはなかなか良い展示をしていると思うんですよ。ただ、観賞の方にあんまり観賞する態度が見られないので、結局は自展の盛り上がる方にみんな流れてしまって、文展がつぶれてしまったわけです。

僕らの次の代で、文展と自展とを再び分けたんです。僕はその時3年生で、文展を一通り見たんですけど、内容はそこそこ良いものができるとは思いますが、人が少ないという面がありますね。人さえ来れば文展だけでもなかなか良いものできていないかとは思いますが、そうでもないかとは思いますが。

**高木** 水野君、文化部には部室は無いわけだけど、最近昔に比べて、例えば物置きだとかそういうものが出てきてるしね、活動の場所もかなり安定して確保されているんじゃないの？だから、もう少し全体的に活発になってもいいんじゃないかな。運動部に比べるとまだまだ恵まれていない所はあるかもわからんけれどね。

**水野** 環境的には恵まれているかもしれませんが、興味を持つ人が減っているんじゃないですかね。

**佐藤** クラブそのものに入る人数が大分減ってきたんじゃないですか。1年では結構入るんですが、2年・3年になるにつれて特に3年になるとひどいクラスは半分位しか入ってなかったり、そういう状態になってますから絶対数も少ないんじゃないですか。

**山下雪** 今のすごくあると思うんです。運動部だったら、上に学年があがる程いいポストがまわってくるし、実際に自分が活動している場面が前面に出ます。文化部というと特別に前に出るという部分はありませんし、最初の1年間はまあやってみようかという一種の試してみたいな気分で入部して、でもおもしろくないから行かないみたいな結構幽霊部員みたいな人が多いですよ。

また、記念祭の時になって何かやろうといっても意見が出ないみたいですよ。結局何もすることがないから、また去年の真似事でもしようか、そういう雰囲気はありますね。

**平井** それに運動部だと定期的に試合があって、活動そのものに求心力があるんですよ。吹奏楽などは演奏会がありますからどんどん求心力があるんです。展示系になりますと、1年間パッとした見せ場がないというか、やるぞーという気になる時期がないといいますが、そういうのもあって今みたいな状

態になっているということもあるんじゃないでしょうか。

**高木** 金延先生、最近のそういう状況も含めまして、文化部展示のことについて何かございませんか。

**金延** 僕は芦屋高校に来て8年目になりますけど、記念祭全体のバイタリティーに比べると、やっぱり文展、自展を含めて展示系はこの8年間もう1つ物足りない、というのが印象やね。1つ具体的に言うと、この学校に来て展示を見て驚いたのが、汚いということです。ガムテープなんかでもきれいに切ればいいのにね、グチャと手で切ってベタッと貼ったり、本当に汚いんで、お客さんが見に来てても殺伐とするわね。

根本的なことを言えば文化部に魅力がないんやね。今、平井君が言ったように公演系のクラブはコンクール等があるから求心力があるけど、研究系や展示系のクラブはマニアックだからね。そういうのが若い子には人気がないんだろうね。今文化部に入ってる者達で、文化部が楽しくて、クラブがある日が楽しくて、さあ今日やりに行くぞ、とやってる子は実際としては少ないとちがうかな。衰退の方向にあるのはほんとうに残念だけど、高校生気質の変化といった大きな背景があると思うね。もちろん、だからどうすべきかと云う大切な問題は残るけどね。

そこで記念祭の中では工夫してるね。例えば、宮尾君の代の時から文展を自展と一緒にしたのはそういう工夫だったと思うね。自展の時は人が少ない、文展でも人が少ない、じゃ一緒にしちゃってとにかく人を集めようとしたわけ。自展にはテレビの模擬ゲームなんかあるから人が来る、その流れで文展の方も見てもらったらいいわ、ということで、文展と自展を一緒にしてある種の成功があったと思うんだけど。

その後、文展と自展がいっしょのパターンが多いんだけど、どちらにしても内容がおもしろくないと人は集まってこない。研究系のクラブは生徒自身がおもしろいと思ってないんだと思うね。山下龍郎君らの時代からそういう傾向があったかもしれないけど、徐々にそういう傾向が芦高だけじゃなくて全国

的にあるんじゃないかなあ。クラブ活動で学ぶものの重要性を認識するならリーダー的な役割の執行部員はもちろん、教師側も本気になって取り組む問題だと思う。

それで、僕は何年も前から1つの出来得る工夫として企画ものにしたらいいと、しきりに言ってたんです。執行部の方がイニシアチブをとるような形で企画ものにして、お客さんも参加させる中で楽しみを持たす工夫をせなしゃあないなあとは考えたりしてるんです。文化部の衰退は芦高の文化が衰退していくつまり、「自由、自治、創造」の精神が衰退していくようなことから、生徒も教師も真剣に考えてなんとかしないとイケないけど、一朝一夕では難しいだろうね。

ついでに、記念祭が6月に変わったことで関係する心配事を1つ言うと、最初、6月に記念祭が変わる時に唯一のメリットは文化部の3年生も参加してくれるということだったわけです。今までは文化部は9月の記念祭だったら、10月で1、2年生が代替りしていたわけです。でも6月だったら、運動部のインターハイと同じように3年生は6月の時点まで残ってくれて、1年生がお客さんで2、3年生で文化部の公演や展示をしてくれるだろうと考え、唯一のメリットだと思っていたんです。ところが、ふたを開けてみるとそうじゃなくて3年生は早々と引退してるし、文化部の公演系にしる展示系にしる6月の記念祭は1年生がお客さん、2年生がやって、3年生が引退してるということになり、これは文化部の衰退ということでは非常に心配な1つのポイントだと思うな。今年の公演系もうまくはいってるけど、やっぱり3年生が出てないからレベルダウンしてたからね。そこの所が大きいから、6月に変えたということは大きな問題を残してしまったなあという気はするよな。

**大仁** 芦高の記念祭は文化部がメインや主人公やと言いながら、文化部は衰退しているんですね。文化部が衰退した1つの原因は部室が壊されたということが大きいですね。本館改築まではバレーコート<sup>1</sup>の横に2階建ての文化部の部室があったわけです。それが本館改築の時の資材置き場の関係で部室が壊

されて、各部の持っていたロッカーとかが廊下や階段下に散らばったまま今日に至っている。部室というのは大事なもので、部室があると放課後そこへ集まって来て、たとえ2人でも3人でも日常的に会話している中で何となく形が出来てきて、それが記念祭に出てくるというのが一番いいんだけどね。僕は中館の便所が広すぎるから半分つぶして上からずら一と文化部の部室にしてくれないとか、地下倉庫などを考えたんですがね。なんとか部室を作らないと、文化部特に展示系発展は難しいですね。

## 私にとっての記念祭とは何か

**高木** 記念祭についてまだまだ話が尽きないかと思うんですけど、最後にあなた方にとって記念祭とは何だろうか、芦高にとって記念祭とは何だろうか、そういう観点で一言ずついただければと思います。

**山本健** 執行部のメンバーとしての自分にとっては、ある一定の時期の自分自身の高校生活そのもの、自分を表現する場だったと思います。一般の生徒にとっては芦高生を自覚する場だと思いますね。「どんな高校やったん？」と大学に入ったり職場に行ったりして聞かれると、文化祭と体育祭を一緒にしたような記念祭というのをしてたんや、という話題の1つも出てくるものですから、俺は芦高生やったんやと自覚する1つの場面だと思いますね。

**安藤** 僕が現役だった時の記念祭というのは非常に大きな目の上のたんこぶで早くなくなればいいなあと思っていました。でも、終わったとたんに、自分の血となり肉となりという感じで、すごいことをやり遂げたという感じです。一般の自治会員である芦高生から見ると、芦高生を自覚するのは卒業してからのことで、その当時は休みが多くてお祭やという感じだったと思います。でも記念祭というのは僕は、それでいいと思います。

**伊塚** 私にとって記念祭というのは初めて執行部と芦高生という立場を認識させられた場なんです。私の大学のことで恐縮なんですけど、大学にも学祭というのがあり、私の友達で学祭委員というのをやっ

ている人がいるんです。学祭のメインは各クラブのたこ焼き屋さんとか、クレープ屋さんとかなんです。「クラブの子らのために、私は動いてやっているのに」という言い方でその子が私にグチを言うんです。私は副会長やっていた頃を思い出すのですが、私も一時なんで皆こんなに動かへんのかと思っていました。

でも、私達は前々の資料とかで計画を立てる側ですから、記念祭の全体のことがよく見えてわかるんで、代議員や一般生徒より知っているというだけで、彼らよりも上に立っているという錯覚に陥ると思うんです。いつまでもそんな風に思っていたら、いつまでも動かないと思うんです。自らがしんどい目をして動かないといけないなと思いました。

**瀬井** 僕は2年間執行部で仕事をしていたんです。1年生と2年生の時にやっていて、やっている時はすごい一生懸命なんです。3年生になってから執行部を離れて、一自治会員として記念祭に臨んだ時に、自分達が会長や副会長で仕事やっている時は皆こういう風に考えていたのかと感ずることができたんです。だから記念祭は執行部ではなくて学校全体の1つの大きな行事としてとらえなければならぬんじゃないかな。

**永田** 僕は安藤さんの代に副会長をやっていたわけです。今まで僕が23年間生きてきた中で、県芦の記念祭というのはとんでもないお祭り騒ぎだったといい意味で思います。特に執行部をやっていて面白かったこともあったし、とんでもなかった事もありました。実際に記念祭という行事が今まで続いていますし、これからも続いていくと思います。こういう経験をされる方がこれからもおられると思いますが、よろしいんじゃないでしょうか。

**平井** 僕は3年間一般生徒として記念祭に参加することはできなかったんですけども、一番よかったと思うのは、理屈抜きで「ああ良かったな」と感じられる経験が記念祭でできたということです。後輩達に残すのは、自分で良かったなと思えることができるようになってくれたらと思います。

**高木** ここでぜひ私にという方がおられましたら…。山本光一君、どうですか？